

聖 五月

句集

SEI-GOGATSU

善野行

Zenno Kou

教へ子に母の面影聖五月

農業を主としながら
高校の国語講師も勤め多忙であるが、
その農業で得た作品には
土地に根を張ろうとする決意や実践の力強さがある。
農家の長男として
父祖伝来の農地を護ろうとする気概の作も多い。

山田六甲（「序」より）

初音かな居間に入る日の溢れつつ

春浅し肌に傷ある鯉ゆらぐ

鶯の声聞きし日の別れかな

干支二巡してかなふ恋雛祭

うららかな花屋の棚に水零れ

桃咲くや武蔵の果のうす曇

春風や慕はしきへと足は向き

時雨るるやこの道ゆかば祖の家

野焼きして旧道現るる池の土手

鷗鳴く鞆の浦辺に光る風

真つ青の朝に蜜柑の花咲けり

柿若葉庭に差す陽のみづみづし

しろがねに葉を裏返す初夏の風

印南は遠き父祖の地麦熟る

万象の逆さに沈む植田かな

あぢさゐの触れて赤子の手のごとし

八月の七日貴船の川の音

片陰を堀川沿ひに歩みけり

鳶の眸とひたと合ひたる日の盛

書に倦めば沓脱石の蜥蜴かな

昼寝覚犬のごとくに水を欲る

元の道ふと忘れたる残暑かな

ならまちは路地も大路も夏の瘦

秋海棠魚山の院の庭静か

田の男二百十日の稗筆る

望の月義賊の墓の文字現るる

蕎麦の花伯耆の雨は音もなし

生き急ぐ癖捨てよとや秋の空

おばしまに澄む水音の響きけり

高原の露けき朝へ歩み出づ

籠めし手を蹴り返しくる飛蝗かな

亜麻色の光に撓ふすすきかな

むねの道桜の下の女香具師

薄化粧せし姪とみて花の宵

真盛りの桜を下に観覧車

刈り払ふいばらに赤き新芽かな

仰ぎ見る新芽は空に侵されず

母上の逝きし若葉のゆらぐ中

逸るもの身の内にあり更衣

葉桜や鷺沢萌なげ死んだ

雨あがる早苗斉しく吹かれをり

梅雨の窓亡き師の文を読んでゐる

豆飯や古くて妻の愛しかり

蜘蛛の糸小さき橋を鎖しけり

涼しさや巖の襖を船頭歌

寝不足の目にうすものの膝頭

トラックの後追うて行く落葉かな

街の夜の光をふくみ銀杏散る

鳶紅葉仰げば白き校舎かな

秋雨に須磨の浦廻のたかぶり来

善野行(ぜんのこう)

- 一九五七(昭和三十二)年 神戸市生まれ。
- 大学卒業後、会社員、アルバイトなどを経て、
- 一九八五(昭和六十)年四月より愛徳学園中・高等学校(神戸市垂水区)に奉職。
- 国語科教員、高校部主任、進路指導部長を歴任し、
- 二〇一六(平成二十八)年三月退職。
- 現在、家業の農業(米作り) 従事の傍ら、県立高校非常勤講師。
- 二〇一六(平成二十八)年五月、俳句結社「六花」入会。
- 以後、山田六甲師のご指導を仰ぎ、「二生一句」の精進中。
- 二〇一九(平成三十一)年より「六花」同人。俳人協会会員。

句集 聖五月

著者*善野行 ©

発行日*二〇二〇年八月三十一日

発行人*烏田牙城

発行所*邑書林

661-0033 兵庫県尼崎市南武庫之荘3-32-1・201

Tel ○六(六四三三)七八一九

Fax ○六(六四三三)七八一八

郵便番号 〇〇一〇〇・三・五五八三三

youshon@fancy.orc.nic.jp

<http://youshoshinshop.com>

印刷・製本所*モリモト印刷株式会社

用紙*株式会社三村洋紙店

定価*本体二二〇円プラス税

図書コード*ISBN978-4-89709-901-9